

電子お薬手帳 服薬情報の一元的管理へ

まずは普及率向上が最重要課題



4月の調剤報酬改定で、電子版のお薬手帳でも紙媒体のお薬手帳と同様に報酬が算定できるようになる。電子お薬手帳サービスを提供する薬局以外の医療機関、薬局、患者でも簡単に手帳の内容が閲覧できたり、患者のスマートフォン（スマホ）などを直接受け取らなくても手帳の情報を閲覧できるなどの条件はあるが、携帯性の高さから持参忘れを防いだり、災害時などでもクラウド上にデータが残されていて紛失リスクが防げるなど電子版ならではの特徴が生かせれば、お薬手帳の利用拡大につながる可能性が大きい。すでに調剤薬局チェーン各社や日本薬剤師会、日本保険薬局協会などが電子お薬手帳サービスに乗り出しているが、電子版の普及率はまだ高いとは言えないのが現状。服薬情報の一元的管理のためにもまずは電子お薬手帳を普及させることが重要だ。

4月以降、電子お薬手帳でも紙媒体の手帳と同様に報酬を算定するためには、どの薬局、医療機関でも簡単に手帳の内容を閲覧したり、手帳に記入することができ、その内容を紙媒体に出力できることが不可欠。医療従事者が患者のスマホなどを直接受け取らなくても手帳の情報を閲覧できる仕組みがあることも求められる。こうした仕組みが利用できない医療機関もあるため、電子お薬手帳を提供する薬局では手帳の内容が記録されたスマホなどを直接、医師に見せることが必要な場合があることを患者に事前に説明し、同意を得ておくことが必要になる。

複数の運営事業者などが提供している電子お薬手帳を一元的に情報閲覧できることや、少なくとも過去1年分の服薬情報などを一元的に一覧できること、患者が現在利用している電子お薬手帳とは別の電子お薬手帳を利用することを希望した場合、データ移行が円滑にできるように、関連情報の出力機能を備えていることなども条件だ。

●健康関連データなどとの連動も

電子お薬手帳をめぐるのはアインホールディングスや日本調剤など大手調剤薬局チェーン各社が独自のサービスを展開。日本薬剤師会や日本保険薬局協会などの団体や、ソニーやパナソニックヘルスケアなど電機メーカーもサービスを提供している。電子お薬手帳でも調剤報酬が算定できるようになることを受けて、3月にはNTTドコモも参入した。現在、電子お薬手帳のサービスを提供している運営主体は30程度あるとされる。

〈次頁へ続く〉

各社、各団体とも電子お薬手帳に健康データなどとの連動機能などを強化し、利用者の拡大を競っている。総合メディカルはパナソニックヘルスケアと協力して導入した電子お薬手帳「ヘルスケア手帳」で、iPhoneに搭載されている「ヘルスケア」アプリとの関係を昨年12月から開始。計測した歩数、体重、心拍数、摂取カロリー、血糖値などさまざまなデータを電子お薬手帳と共有する。まず、歩数データからスタートし、体重や血圧などに広げていく予定。

日本調剤は2月から神奈川県と共同で、電子お薬手帳のデータと健康データを組み合わせる実証実験を始めた。3月末までの実証実験期間中、参加者は体組成計や歩行強度計などのヘルスケア機器で日々の健康記録を計測し、同社の電子お薬手帳アプリ「お薬手帳プラス」に記録していくことで自分の健康を管理する。

電子お薬手帳サービスを提供しているある運営主体の担当者は「いろいろな企業が電子お薬手帳を展開しているが、患者数に比べて普及度合いがまだまだ低い。まずは全国に広がっていくことが大切だ」と指摘する。各運営主体は電子お薬手帳の利用者拡大にしのぎを削っているが、それぞれが機能の充実など電子お薬手帳の魅力を高めることが利用者の拡大につながり、ひいては服薬情報の一元的管理につながるのではないかと見ている。（山田 宏）

■JASPO

4つのがん種をテーマに大阪でセミナー開催

日本臨床腫瘍薬学会（JASPO）は、大腸、肝臓・膵臓・胆道、婦人科、造血器の4つのがん種をテーマに「ブラッシュアップセミナー2015 in 関西」を6月19日（日）午前10時半～午後5時まで、大阪市東淀川区のCIVI研修センター新大阪東E5Hallで開催する。昨年12月開催のセミナーへの申し込みが殺到し参加できなかった人が多数いたため、同じ内容で実施する。申し込み開始は3月14日（月）正午。詳細は、JASPOホームページ（<https://jaspo-oncology.org/>）まで。

■厚生労働省オーファン指定

GSKの抗がん剤、ノバルティスが引き継ぎ

厚生労働省医薬・生活衛生局審査管理課は7日付で課長通知（薬生審査発0307第1号）を都道府県に出した。グラクソ・スミスクラインが申請し、希少疾病用医薬品の指定を受けていたネララビン（予定される効能・効果＝成人および小児における再発・難治性のT細胞性急性リンパ芽球性白血病とT細胞性リンパ芽球性リンパ腫、成人T細胞白血病/リンパ腫）の指定を取り消し、代わりにノバルティス ファーマを申請者として指定したことを周知した。

【日刊薬業】